



学 校 だ よ り 7 月 号

うんのうっ子



令和8年7月17日発行 創立130周年 伊仙町立面縄小学校（86 - 2036）学校公式ブログ

七月の 望の宵とて 黍高し ～水原秋櫻子～

校長 重信 廣行

ある日のこと、物干しロープに一羽のヒヨドリがとまっていた。よく見ると、くちばしの黄色い幼鳥です。近寄っても逃げないその姿をそっと見守っていると、少し離れた場所から、一際にぎやかに鳴き騒ぐ親鳥の声が聞こえてきました。きっと、巣立ったばかりの我が子を心配で見守っていたのでしょう。「危ないよ」と伝える親鳥の警告を察したのか、幼鳥はパタパタと電線へと飛んでいきました。寄り添うように一緒に飛び去っていく親鳥の後ろ姿を見送りながら、「本当に気が気でなかったろうな」と、その温かい親心に胸が熱くなりました。餌の採り方、危険の避け方、そして羽を休める場所――。厳しい自然の中で生きていく術を、親と過ごす日々の中で一つひとつ身につけていくヒヨドリの姿に、「がんばれ」とエールを送りつつ、生き物としての小さなくましさを感じた出来事でした。



7月8日に、「不審者対応訓練」を実施しました。前半は校内に不審者が侵入した想定で職員が児童の安全を確保する訓練を、後半は登下校中に不審者に遭遇した際の対処法を学ぶ訓練を行いました。後半の訓練では、体育館に「子ども110番の家」の池田さんをお招きし、職員が不審者役を演じて実践的なシミュレーションを行いました。まず、高学年の代表3人が挑戦しました。不審者からの怪しい声かけに対しても、しっかりと一定の距離を保って対応し、すぐさま走って「子ども110番の家」に駆け込み、不審者の特徴を正確に伝えることができました。続いて、中学年の3人です。作業着姿の地域の方（通りがかりの人）に元気に挨拶を交わした後、今度はスーツ姿の不審者に「写真を撮らせて」と声をかけられました。子どもたちは「助けて!」と大声で叫びながら全力で逃げ、無事に110番の家に逃げ込むことができました。事後の全体指導では、「不審者は見た目や性別だけでは判断できないこと」、そして「日頃から地域の方と挨拶を交わしておくことの重要性」を改めて指導しました。訓練終了後、大声を出すことができた4年生の児童に「『助けて!』って、すごく立派な声が出せたね。たいしたものだよ」と声をかけると、はにかみながらも、とても嬉しそうな笑顔を見せてくれました。いざという時に自分の身を守る行動ができた自信が、その表情に溢れていました。



いよいよ子どもたちが楽しみにしている夏休みがやってきます。この夏休み期間中は、島外からの旅行者や帰省客が増え、地域の様子もいつもと少し変わります。事故や病気に十分に気を配りながら、充実した毎日を過ごしてほしいと願っています。同時に、知らない人や不審な動きをする人物に対しても決して油断することなく、訓練で学んだ「自分の身は自分で守る」という意識を常に持って、安全に、そして最高に楽しい夏休みを過ごしてくれることを祈っています。

8月・9月の行事予定

8月12日(水)	9日(水) 運動会全体練習Ⅰ
～14日(金) 学校閉庁日	10日(木) 幼保小連携部会
21日(金) 出校日	15日(火) 運動会予行練習
23日(日) おもなわ読書の日	16日(水) 運動会全体練習Ⅱ
27日(木) 学校運営協議会	17日(木) 運動会会場設営
9月1日(火) 始業式	18日(金) 運動会前日準備
2日(水) はこぶっく来校	19日(土) 秋季大運動会
5日(土) PTA奉仕作業	23日(水) おもなわ読書の日
8日(火) 運動会結団式	24日(木) 振替休日



税について考える

7月2日(木)6年生の学級で租税教室がありました。今年は、伊仙町のくらし支援課から2名の方に来ていただき、税金の仕組みや税金がどのような使われ方をしているか等について話をいただきました。社会の時間に、すでに学んでいたこともあって、みんなしっかりと話を聞くことができていました。特に、自分たちが学んでいる学校にあるものの多くが、税金を使って用意されていることを知り、「大切に使いたいです」と思いを強くしていました。

用意していただいた1億円と同じ重さのケースも持たせてもらい、「お金」というものを実感することもできていたようです。



食事のマナー

7月8日(水)1・2年生の食に関する指導についての学習がありました。今回は、栄養教諭の有満先生に来ていただき食事の際のマナーについて学びました。食べる時の姿勢、「はし」の持ち方等、クイズなどを交えながら楽しく学ぶことができていました。食事の際のマナーもまた、一緒に食べる周りの人への「思いやり」であるということを、しっかりと学ぶことができていた様子でした。



いのちの授業

7月15日(水)「いのちの授業」が行われました。これは、がん教育の一環として、毎年行われているものです。



「がん」という病気について正しく知ること、その上でよりよく生きようとする思いに触れ、「いのち」について改めて考えていこうとすることが主なねらいになります。子供たちは、オンラインでつながった講師の先生のお話を真剣に聞いて、自分の生き方について考えている様子でした。

